



作・絵：おかだ

X(旧Twitter)でふりかえる 高尾山ニュース！

高尾ビジターセンターのX(旧Twitter)・Facebookをチェックしていただいているみなさま、いつもご覧いただきありがとうございます！
 山頂の気温や天気、旬な自然情報などを毎日発信しています。
 2024年4月～6月の間のツイートから、注目のニュースをご紹介します。



高尾ビジターセンター【公式】

天気：晴 気温：18.0℃ 富士山展望：×

#虫の日(6月4日)を過ぎても昆虫を探す#高尾ビジターセンタースタッフ。ケーブルカーの駅で夏を感じさせる情報をいただきました♪
 なんと！今季初確認の#ミヤマクワガタを撮らせていただきました！虫のいい情報ありがとうございます♪ #高尾山



午前11:48・2024年6月6日・1万 件の表示

高尾山には男子たちの憧れ、ミヤマクワガタが生息しています！市街地近郊の高尾山と立派なミヤマクワガタの組み合わせが反響を呼びました！クワガタムシの姿を見かけると夏の訪れを感じさせられますね♪

解説員

 コ
ら
む

vol.38

なんじゃこりゃ？高尾山

今まで都市公園で飼育生物などの解説を行ってきた自分に、降って湧いた高尾山での勤務。知らないことだらけで不安半分、自然に囲まれた環境というワクワク半分で勤務が始まったのですが、結論から言うと不安を吹き飛ばすほどのワクワクがずっと続いています。というのも、高尾山には好奇心を刺激する「なんじゃこりゃ？」なもので満ち溢れているからです。

初めて通勤する時に「なんじゃこりゃ？」と思ったのはミミガタテンナンショウという不思議な形の植物でした。調べてみるとサトイモの仲間、目立っている部分が花だと思っていたら「仏炎苞」という葉であり、花は内側に隠されていることに驚きました。また、筒状の形にも理由があり、虫に受粉を手伝ってもらうための仕組みになっているようで、二度驚かされました。

植物一つでそんな驚きがあるのに、高尾山には植物が約1600種、昆虫が約5000種、他にも哺乳類や爬虫類、両生類も数多く生息しているため、これから先どんな生き物との出会いが待っているのか考えるだけでワクワクしています。また、同じ生き物でも出会った度異なる表情を見せてくれるため、じっくり観察をしていて出勤時間ギリギリになつてしまうこともしばしば発生中。この先、高尾山に慣れることはあっても飽きることはなさそうです。

季刊高尾ビジターセンターニュースレター「のぶすま」2024年夏号vol.76

東京都高尾ビジターセンター自然解説員作成 2024年7月2日発行

所在地：〒193-0844東京都八王子市高尾町2176 電話：042-664-7872 FAX：042-662-9926

(公式ホームページでバックナンバーが閲覧できます <https://www.ces-net.jp/takaovc/>)

高尾山山頂から発信！

のぶすま

「のぶすま」とはムササビの古い呼び名です。


 vol. 76 季刊
 2024年夏号

高尾山の夜空を舞う昆虫ハンター

日没時間を過ぎた頃、空を見上げると薄暗い空を舞うコウモリたちのシルエットが目立ちます。体が小さく夜行性のため、間近に観察する事が難しい動物ですが、高尾山周辺では8種類のコウモリの生息が確認されています。本号では彼らの暮らしや、高尾山とコウモリの繋がりについてご紹介します！



キクガシラコウモリ



テングコウモリ



ヒナコウモリ



アブラコウモリ



コキクガシラコウモリ



コテングコウモリ



モモジロコウモリ



ヤマコウモリ



モモジロコウモリ



コテングコウモリ

Q. 高尾山周辺に暮らすコウモリは何を食べているの？
 A. 昆虫(ガやバッタの仲間など)を食べています。

高尾山は日本三大昆虫生息地の1つで、生息する昆虫はなんと約5000種類！つまり、僕たちコウモリにとって高尾山は、食べ物の種類が多く暮らしやすい環境なんです。

Q. 高尾山周辺に暮らすコウモリって日中はどこにいるの？
 A. 木に空いた穴(樹洞)や洞窟、民家の屋根裏などで暮らしています。

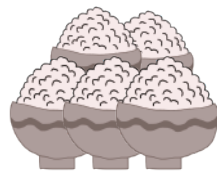
僕は日中アカメガシワやカエデ等の大きな葉っぱを布団代わりにして寝ています。高尾山では僕の寝床になる葉っぱがついた樹木を沢山見つけられるんだけど、それにはどんな理由があるんだろう…？

アブラコウモリ写真提供：森林総合研究所九州支所 安田雅俊 氏



コウモリは1日にどのくらいの量を食べているの？

小さな体のわりにコウモリは大食漢な動物で、**自分の体重の約3分の1に相当する量の昆虫を一晩に食べています**。小さい蚊であれば、食べる量はなんと約500匹とのこと！高尾山が昆虫の種類の多い環境だからこそ、コウモリたちは毎晩空腹を満たすことができるのです。



×約100杯分以上！

人間のごはんに例えると
お茶碗に入ったお米100杯分以上！



コウモリのターゲットはこの昆虫たちだ！



カの間



ガ・チョウの間



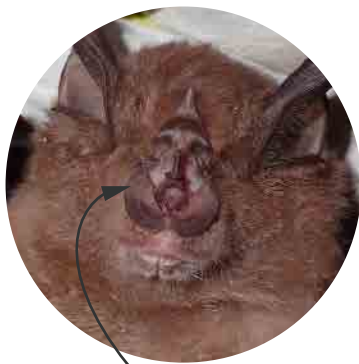
キリギリスの間



カメムシの間

昆虫ハンターは“超音波”使い

コウモリは真っ暗な夜の森でも、獲物の位置を正確に特定できるスゴ技ハンター！超音波を顔から発射し、物体から反射してきた超音波を受け取ることで障害物や昆虫の位置や大きさを感知します。素早く飛ぶ昆虫もこの超音波の前に捕まってしまうのです！このような超音波で物の位置を感知する事を「エコーロケーション（反響定位）」と呼び、超音波は**コウモリの種類によって異なる場所から発射します**！種類によって超音波を出すために発達した顔の部位が異なるので、顔の特徴を見比べてみると面白いですね！



アンテナ型の鼻から超音波を発射
キクガシラコウモリ



口から超音波を発射
モモジロコウモリ



突き出た鼻から超音波を発射
テングコウモリ



コウモリにとっての高尾山

高尾山には昔から動植物を保護する殺生禁断の歴史があり、現代でも樹洞のできた大木を数多くみることができます。そのためコウモリの棲み処も多く、出産や子育ての他、冬眠にも利用できる生存に必要不可欠な自然環境が存在します。本誌でご紹介した様々なコウモリたちが夜空を舞える豊かな環境を未来に引き継げるよう、登山の際は高尾山の自然を大切にしてください。私もコウモリも嬉しいです。

〈解説員なかの〉



画像：高尾山に残る樹洞のできた大木

登山者数世界一と評される 高尾山の水事情

殺生禁断の教えによって守られた森には豊かな木々が残り、森が蓄えた水が人々を潤してきました。しかし増え続ける登山客の影響で水不足という問題も発生していました。

高尾ビジターセンターの窓口では「飲める水はありますか？」という質問をよくいただきます。一般的に山の上で無料で飲み水が手に入るところはほぼありません。しかし、高尾山には、水道が整備されており、水洗トイレ、手洗い場の他、飲み水場があります。なぜ山頂に水道水があるのでしょうか？今回は高尾山の水道が整備されるまでの歴史を振り返っていきます。

山頂に水道水が引かれるようになったのは、2010年のことです。それまでは、森が蓄えた良質で豊富な日影沢の水をポンプで山頂までくみ上げ、浄化し、飲用水やトイレに利用してきました。しかし、2007年以降、高尾山山頂では水不足が起き始めていました。その理由の1つがオーバーユースです。増加し続ける登山客に対して、小さな沢からの供給だけでは水を賄いきれず、山頂では度々、水不足が発生していました。水不足が発生した際には、応急的に給水車が麓から山頂まで水を運ぶこともあったようです。

この問題を解決すべく、東京都水道局は、標高200mと370m地点にポンプ所と、580m地点に配水所を設置する計画を進めました。そして2010年、ついにポンプ所2基と山頂直下に配水所、麓から標高580m地点までを繋ぐ全長約6.9kmの水道管を敷設する工事が完了しました。これにより、水道水の安定的な供給が可能になりました。

昭和30年代の高尾山の様子を書籍からのぞいてみると、今では見ることのできない滝の存在が複数あったという記述があります。現在の主要な滝は、滝行が行われている琵琶滝と蛇滝の2箇所ですが、以前は「清滝、琵琶滝、蛇滝、布流滝、宝生の滝、そして小下沢に逆沢の滝とザリクボから景信山に登る途中にも小さな滝が…」と記されています。また、裏高尾の蛇滝口バス停前には水飲み場があり、ここを訪れた人々を潤していたようです。

インフラが整った現在では、山頂で当たり前に上水が利用できる環境が整っていますが、かつての高尾山の水事情を振り返ることで、水が豊かな森によって生み出される有限資源であることを実感しました。

今年は、山の日全国大会が東京都で予定されています。山の日には「山に親しむ機会を経て、山の恩恵に感謝すること」を目的に制定されました。当たり前に存在している水や水を貯える森の存在について、気づき、考えるそんなきっかけにしてみたいかがでしょうか。

解説員 〈解説員 おさき〉

参考文献「東京の山 高尾山 身近な自然を考える」朝日タウンズ編

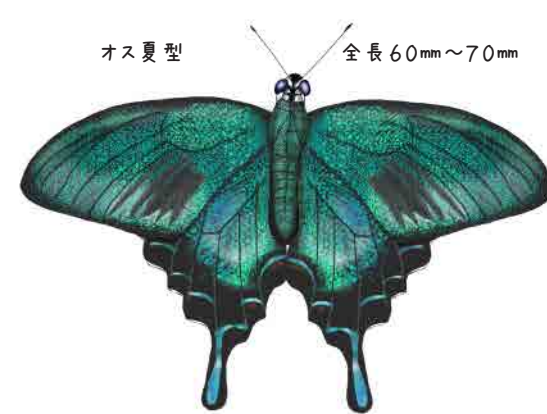
解説員の



vol.34

カラスアゲハ

黒い翅に青緑色の鱗粉が輝く



オス夏型

全長60mm～70mm

オスには黒い毛が生えています。

名前に「カラス」とつくカラスアゲハ。カラスと言えば黒色のイメージがありますが、羽が光に当たるときれいな青緑色が見えてきます。カラスアゲハも近くで観察すると黒色の翅にキラキラした青緑色の鱗粉が映え、角度や光の当たり方によって色の変化が楽しめます。

見られる時期：4月～9月頃
見られる場所：山内どこでも見られる（ネムノキ、クサギ等の花の蜜を吸う）

〈解説員 わたなべ〉